

2510GengoKa. pdf

2025.10 ブログ：

『職場にはびこる「言語化」のプレッシャー』の詳細

(→ <http://www.1968start.com/M/blog/index4.html#2510>)

「職場にはびこる「言語化」のプレッシャー」

中所武司

■このエッセイのきっかけ

「言語化」という表現がマイナスイメージで使われているのが気になり、読んでみた。

・日経ビジネス (2025. 9. 18 電子版)

『職場にはびこる「言語化」のプレッシャー 若者を追い詰める呪いの言葉』

(著者は、健康社会学者)

https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00118/00376/?n_cid=nbpb_mled_mpu

■要約とコメント (→★)

この記事の3つのポイント

1. 職場で「言語化」に悩む人が増えているようだ
2. 本来、言葉はコミュニケーションの一部に過ぎない
3. 言語化を過度に求めると部下を追い込むことになる

・あるネットテレビの番組に呼ばれ、今どきの若者の事情に驚いた。

周囲から、「言語化できない人は仕事ができない」

「言語化できないとやりとりばかりが増えて、人の時間を奪う」などと批判され、ますます言語化できなくなるという悪循環に陥るといふ。

・「言語化」は、ロジカルシンキング（論理的思考法）や問題解決のフレームワークの文脈で使われる言葉だと思っていたが、若者が使う「言語化」は違うらしい。

→★私も著者と同じで、大学では、「議論自由」というモットーをかかげ、議論する能力を身に着けるように、学生を指導してきた。

<参考ページ> 「議論自由とは」

<https://www.1968start.com/M/semi/openLAB/gironJi.htm>

(抜粋)

- ・多くの職場では、議論しながら物事が決まっていく
- ・多くの職場では、議論できる人は仕事ができる人

- ネットテレビの番組に出演して「若者の言語化の悩み」の正体が見えた。
 - * 事例 1 : 「あなたは言語化できてない」と先輩社員に言われ、遅刻した部下を指導するのさえ怖くなった
 - * 事例 2 : 上司に言われたことに「はい」と答えたら、「それだけか？ 自分の意見はないのか？」と問われ頭がパニックになった
それ以来「言語化できない自分」に悩むようになった
 - 「言語化」とは、SNS 社会という「言葉の力が肥大化した社会」と、テキストという限定性が生む生きづらさのようだ。
 - そこで、若者を追い詰める「言語化」の正体とその心理、その悩みのきっかけとなる、上司と部下のコミュニケーションについて考えてみる。
 - まず、インタビュー協力者のメールの内容を紹介する。
 - * 事例 1 (食品メーカー事務職、35 歳) :
同僚から『言語化できてないから、空回りしている』と言われ、何も言えなくなった。
気の利いた言葉を操る人が『優秀』『頭がいい』と評価され、言語化に悩む人が多い
 - * 事例 2 (大手金融業営業職、37 歳) :
リモート会議が増えて、『感動を共有しよう』、『コミュニケーションの基本は共感』と言われ、気持ちを言語化できないで悩んでしまう。
 - * 事例 3 :
最近は完璧主義の傾向が強い若者が多く、ダメ出しされたくないと思う。
自分が理想とする『言語化のレベル』に達していないと感じると、
発言自体をためらうようになる。
 - 彼らの話では、「言語化できる人は、誰の前でも自分の言いたいことが言える人」
「言語化できる人は、自分がある人」といったレベルのようだ。
 - 大学の講義で、学生たちに「分からないときは、年上の人に聞きなさい」と言うと、
『コイツ使えない』と思われるので、絶対に聞けない』と言われ、面食らったが、
言語化に悩むのも「言語化できない＝ダメな人」と思われるという不安と、
「自分を認めてもらいたい」という欲求の裏返しと解釈できるが、合点がいかない。
- ★前述の私の「議論自由」のページでも、この著者と同様に以下の記述がある：
『学生には、わからないことを素直に質問することからはじめて、
自分の意見を説得力のある表現で主張できるようになることを期待しています』

「言葉」はコミュニケーションの一部

- ・「言葉」はコミュニケーションの一部に過ぎない。これは「意図明示コミュニケーション」と呼ばれ、人間の進化の過程で身につけた能力と考えられてきた。
- ・他者とつながることで生き残ってきた人間にとって、つながるとは「共感」であり、共感相手と対面し、見つめ合う状況でこそ生まれる感情だった。
人間は、言葉で表現できない視覚・聴覚・臭覚・味覚に訴える情報のやりとりに「認知＝理解」「判断＝推察」などの知的機能を加え、高度なコミュニケーション能力を身につけていった。

→★以下のブログでは、関連する指摘を引用している：

『現代は言葉の影響力は増す一方で、共感によってつくられた社会は壊れてしまう』

<参考ブログ>

2022.9 『ゴリラから見た人間の非常識』を読んで

<https://www.1968start.com/M/blog/index2.html#2209>

- ・「言葉にできないこと」＝「思考していないこと」ではない。
当初の「言語化」は「言葉になるもの」を論理的に分かりやすく伝えることだったが、現代社会では、こうした「言葉にならないもの」が軽視され、「言語化」してアウトプットされなければ、存在しないものとして扱われてしまう。

→★言語の役割には、コミュニケーション言語と思考言語がある。

思考言語の重要性の観点からみれば、職場での「言語化」という表現には違和感あり。

「言語明晰、意味不明」に陥らないように、考える力を重視すべき。

<参考ブログ>

2018.10 幼児の自己中心言語と内言の関係

<https://www.1968start.com/M/blog/index.html#1810b>

<抜粋>

『言語機能を外言（音声言語、コミュニケーション言語）と、内言（思考言語）の二つに分離して議論したヴィゴツキーの理論は、かなり思考の本質にせまったものと思われる』

- ・言語化できて当たり前、言語化できる人は優秀な人、言語化できない人はダメな人、という極めて乱暴かつ単純化された方程式が出来上がっている。

→★「言語化」の要否は、業務内容で異なる。

私は、前述したように、議論する能力を身に着けるように学生を指導してきたが、それは、議論しながら物事が決まっていくような業務の場合である。

一方、黙々といい仕事をすればよい分野も多い。

(例) 仕様が決まった後のプログラム開発、・・・

- ・コミュニケーションの成立に不可欠なコンテキストもないがしるにされている。ちょっと前までは、文脈、背景、状況などを推察する力こそが不可欠と言われていた。言葉の力の肥大化は、「私」たちアナログ世代の想像をはるかに超えている。

→★電子メールやSNSのように、テキストのみでの会話では
コンテキストが無視されやすく、テキストを文字通りの意味で解釈しやすい。

- ・部下が言葉に詰まっても、安易に「つまり、こういうことだね？」と結論付けない。ただただ「うんうん」「それで？」と相づちを打つ。

この「最小限の相づち」はカウンセリングや心理療法で用いられる手法の一つで、話し手が「自分のペースで話しても大丈夫だ」という安心感を抱くことを助け、自己開示を促し、自己解決能力を高める効果があることが実証されている。

- ・日頃から「無駄な時間、無駄な話、無駄な空間」を大切に、非言語的な信頼関係を築く努力をしてほしい。上司と部下のコミュニケーションが難しい時代だからこそ、数分でも立ち止まってたわいもない話をするなど。

→★過去ブログ (2022. 4) 「リモート職場で、雑談にチャットを利用」
<https://www.1968start.com/M/blog/index2.html#2204b>

<抜粋>

『オンライン上では、指示や承認などのやりとりだけになりがちだが、相手に関心があることを雑談などで伝えていくことが求められている』

→★過去ブログ (2018. 10) 「孤独の発明 または言語の政治学」を読んで」
<https://www.1968start.com/M/blog/index.html#1810>
<https://www.1968start.com/M/blog/1810BookKodoku.pdf>

<抜粋>

『21世紀になってからのチョムスキーの発言で強い興味を引くのは、

言語はコミュニケーションの手段ではないという言明』

『言語はコミュニケーションというよりは人間的思考の起源だと述べている』

以上